

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	1311102571
施設名	このえ長原保育園
施設所在地	東京都大田区上池台1-45-8
法人名	株式会社なないろ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「声・音・動きの表現遊び」

<テーマの設定理由>

日頃から子どもたちは音楽やリズム遊びに親しみ、保育活動の中で音・声・動きが想像力や他者との関わりにつながっている。生活の中のさまざまな音やリズムを自発的に表現することは、ごっこ遊びや模倣遊びともつながっており、日常的に楽しむ様子が見られる。

また、これまでの活動でカラーリング（輪）などのさまざまな保育教具を提示した際、それらを「音のイメージ」や「自分の動く範囲」と結びつけて、動きをより具体的にイメージしながら高い関心を示していた。特にリングなどの教具を使うことで、自分の立ち位置や移動する空間を視覚的に把握でき、身体感覚や友達との距離感を意識しながら動く計画性を育てるのに非常に効果的である。視覚教材を取り入れることで、子どもたちが楽しく、視覚的に理解しやすくなり、「次はどう動こうか」と自分で考えて計画を立てる助けとなる。

このようにリトミックは、音を聴いて感じ、身体で表現する過程を大切にする活動である。「音を見て、感じて、動く」という流れへの興味を、視覚教具を取り入れたリトミックの実践へつなげることで、子どもたちの表現意欲をさらに引き出し、より探究的な活動へと展開していきたいと考えている。

2. 活動スケジュール

- ① 随時：すくわくプログラムへ参加するための視聴勉強会を実施し、導入の準備を行う。
- ② 随時：本部保育責任者と共に活動内容とねらいについて視点合わせを行い、園内担当者の設定と計画の立案を行う。
- ③ 随時：年齢や発達に応じた問い（「おじいちゃんの歩くスピードは？」等）の設定や、視覚的教具（イラストガイドブック等）の制作について担当者間で協議・準備を行う。
- ④ 順次：3歳児および4・5歳児の保育室でスペースを確保し、「天野式リズム太鼓」やケンパリング、視覚的教具を用いた活動を展開する。その際、5歳児が他クラスの手本となってもらうことで、園全体で実践を広げていく。
- ⑤ 継続：活動の様子を写真や動画に記録し、5歳児担任がクラス会議等で振り返りを実施。内容は保護者伝達用のスケッチブックや掲示板を通じて周知を図る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

●環境の設定

- ・2階：3歳児保育室
- ・3階：4・5歳児保育室

●活動の素材や道具

- ・天野式リズム太鼓（主に保育者がリズムを表現するために使用）
- ・ケンパリング（拍子と身体の動きをリンクさせるために使用）
- ・スティックとリズムボード（拍子を視覚から体得するために使用）
- ・動きのポイントを視覚的に示す絵本およびイラストガイドブックの制作

（イラストを見て考え「どうやって動けばいいか」を試行錯誤しながら、身体の使い方への理解を深めるための自作教材）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

年齢や発達に合わせ、以下の探究活動を段階的に展開した。

【3歳児】

「おとうさん、おじいちゃん、赤ちゃんの歩くスピードってどのくらいだろう？」と問いかけ、音符やリズムとのイメージを持たせる。また「この音楽を聴いたらどんな気持ちになるかな」と投げかけ、子どもたちが音楽のイメージを共有し、3拍子・4拍子の違いに触れる活動を行った。

【5歳児】

基本的なリズムや強弱の違い、変化に気づき、動きをリンクさせる活動を実施。他の音楽や歌を聞いた際にも、拍子やリズムを意識できるよう促した。環境設定として、3歳児と4・5歳児の保育室でスペースを確保し、5歳児対象に「天野式リズム太鼓」を実践者が使って展開。ケンパリングを使ってリズムと体をリンクさせた。

【4・5歳児合同】

4・5歳児合同で「天野式リズム太鼓」を実践者が使って展開。ケンパリングを使い、リズムと体をリンクさせた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3歳児】

音楽のイメージを持てるように声掛けをしながら、子どもたちの表現を引き出した。子どもたちは音楽を聞き、「たのしい気持ち」「すこし悲しい気持ち」「おじいちゃんの歩き方」「赤ちゃんの歩き方」と自由に発言し、音符やリズムのイメージを持って表現していた。

【5歳児】

スティックを使い、「強・弱・中強」を声に出しながら、音の強弱を意識してリズムに親しみ、動きをリンクできるよう進めた。子どもたちは積極的に声を出し、楽しみながら活動に参加していた。動きが複雑化していても、身体にリズムがリンクしていることで、自然と「音を見て、感じて、動く」が行えていた。

また、連符について保育者から分かりやすく伝えた。天野式太鼓のリズムに合わせて、2連符、3連符、4連符をリングを使って身体にリンクさせ、繋がった音をイメージできるようにしていった。

【4・5歳児合同】

前回の年長児が行う様子を見て楽しみにしていた年中児も意欲的に参加。保育者の掛け声を聞いて「2連符だ」「3連符だ」と自ら進んで連符を作り、リズムを体とリンクさせることができていた。年長児に比べて太鼓の音に合わせて表現をすることは難しそうではあったが、楽しい雰囲気の中で拍子に触れ、リズムを刻んでいた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3歳児】

音楽を聞いて子どもたちの中に様々なイメージがあることを知った。自由に表現できる機会を作ることで、自信を持って発言する姿が多く見られた。リズムのイメージが持てるよう、保育者が子どもたちと一緒に楽しい雰囲気の中で活動を進めることが大切であると感じた。3拍子、4拍子の違いについては、年少児には少し難しかったようだった。

【5歳児】

拍子や連符の違いを丁寧に伝えてから活動を行うことで、子どもたちも最初から興味を持ち、意欲的に参加できていた。日々連符について意識できるように声掛けをしていることで、子どもたちが率先して「3連符だから三角にしてみよう」「連符はつながった音だから繋げなきゃいけないんだよね?」と発言していた。保育者の声掛けで、自らリングを合わせて連符を作る姿も見られ、太鼓の音に合わせて上手にリズムを刻んでいた。年長児は3拍子、4拍子の違いもよく理解していた。

【園全体・合同活動を通して】

友達と関わりながら楽しく活動に参加することで、リトミックに苦手意識を持っていた子どもも自然と「音を見て、感じて、動く」ができていた。まだ太鼓の音に合わせてリズムを刻むことが難しい子どもがいるが、拍子を理解して楽しんでいたので、今後も引き続きリズムと身体をリンクさせていきたい。

友達同士で「2連符はこうだよ」「それ3連符になってるよ」と教え合う姿も多く見られたので、今後は友達同士で連符を作って表現できる機会を作っていく。また、年少児が年長児の行っている様子に興味を持ち「やってみたい」という姿もあったため、5歳児が手本となる機会を大切にしながら、子どもたちの表現意欲をさらに引き出し、より探究的な活動へつなげていきたい。

<活動中の子供の姿>

【3歳児】

音楽を聞いている様子



子どもたちが保育者の太鼓のリズムに合わせて表現している様子



【5歳児】

友だちと拍子を強弱中強で表している様子



リングを使って連符を体にリンクさせている様子

